



OIST

OKINAWA INSTITUTE
OF SCIENCE AND TECHNOLOGY
GRADUATE UNIVERSITY

沖縄科学技術大学院大学

平成27年度 監査報告書

学校法人沖縄科学技術大学院大学学園

理事会・評議員会 御中

学校法人沖縄科学技術大学院大学学園寄附行為第15条第3項の規定に基づき、学校法人沖縄科学技術大学院大学学園の平成27年度における業務及び財産の状況について監査を行いました。その結果を下記のとおり報告いたします。

記

1. 監査の方法

- (1) 業務についての監査は、理事会及び評議員会に出席したほか、学長及び副学長等から事業の執行状況についての報告を聴取し、重要な決裁書類を閲覧するとともに、内部監査部門との連携の下に業務の妥当性を検討いたしました。
- (2) 財産の状況についての監査は、会計監査人である新日本有限責任監査法人との連携をとって計算書類の正確性を検討いたしました。

2. 監査の結果

- (1) 学校法人の業務又は財産に関し、不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実は認められません。
- (2) 事業報告書は、学校法人の業務運営の状況を正しく示していると認めます。
- (3) 財務諸表は、会計帳簿の記載と一致しており、法令及び沖縄科学技術大学院大学会計基準に準拠し、本学園の財産及び損益の状況を正しく表示しているものと認めます。また、決算報告書は、予算の区分に従って決算の状況を正しく示しているものと認めます。

なお、平成27年度監査結果及び監事意見を別紙のとおり提出いたします。

平成28年5月25日

学校法人沖縄科学技術大学院大学学園

監事 相馬 清貴

監事 當眞 嗣吉



平成 28 年 5 月 25 日

平成 27 年度監査結果及び監事意見

1 法令遵守・綱紀肅正

You gods, will give us. Some faults to make us men (Antony and Cleopatra, Act 5, Scene1)

人間は過ち多き存在である。しかし、そのような人間の本性に安住することは許されず、組織もその組織を構成する全ての者も自らが属する社会が求める規範や道徳を厳格に遵守し、他者に害を及ぼし又は自らの声価をおとしめることのないよう常に努力すべきことは言うまでもない。

そのような観点から、昨年 5 月に明るみに出た本学研究員による薬物検挙事案及び今年 1 月に発生した本学職員による飲酒運転事案について監事は深く遺憾とするものである。

監事は、これら事案の発生を受け、その都度、学長を含むエグゼクティブに対し、このような事案の発生防止に向けどのような対策を取ったかについて質問した。その結果、前者の薬物検挙事案の後には、地元警察関係者を講師に招いた全員参加での研修会、後者の飲酒運転事案の後には、各エグゼクティブが主催するディビジョンごとの会議での指示・周知などの処置が確認された。

監事は、職員による不祥事案の後に、その再発防止について適切な対応が取られたことを確認したが、この際、飲酒運転について付言しておきたい。

現在の日本においては、飲酒運転に対しては極めて厳しい視線が注がれている。そのような状況を受け、過去に比して刑事的制裁は厳格化しており、また職場等での社会的制裁も近時重くなる傾向にある。学長を初めとした各エグゼクティブに対しては、飲酒運転防止に向けた取組を一層強力に進めるよう求めるとともに、OIST が飲酒運転に対して寛大であるとの誤解を生むことがないように、不幸にも同種事案が発生した場合には、事案ごとの詳細な検討・分析を前提としつつも、厳正な措置を取るよう促したい。

2 緊急事態対応

災害は忘れた頃にやってくる (物理学者で随筆家でもある寺田寅彦 (1878-1935) のものとされる言葉)

現在、地震、津波、火災、有害物質・有害動植物の規制区域外への流出、テロ、暴動、及び武力攻撃等の緊急事態に対してどのような対応を取ることになっているかを学長及び各エグゼクティブに確認したところ、学長より、1) 緊急事態が発生した時の情報の伝達及び避難等については既にその手順が定められていること (別表 1)、また、2) 研究安全関係では「安全衛生に関する緊急時の対応手順及び緊急連絡先ガイドライン」(別表 2) があり、キャンパス内の相当の箇所に掲示され学内には広く周知されていること、3) 更に初動措置の後、当該緊急事態への対応

策・収束策を検討・決定するに当たりどのような体制や役割分担で臨むかについて、ニール・コールダー副学長を長とし、マチ・ディルワース副学長、アリ・ガンジロー副学長他の関係者をメンバーとするワーキングチームにより、現在検討が行われており、その検討結果は報告書にまとめられ、提出されることになる、との説明があり、監事もその報告書の送付を受けたところである。

監事は、まず、緊急事態対応に関し、学内で精力的な検討が続けられていることを歓迎する。その上で、報告書にあるいくつかの方向性、特に緊急事態対応コーディネーターの設置について賛意を示したい。国内外の多くの大学では、このような職又はセクションの設置は一般的であり、緊急事態に対応する際、本学全体の調整に大きく力を発揮することが期待されよう。

監事は、この際、緊急事態に対応する際、早急に決めておくべき事項又は着手すべき事項として、以下のようなものが挙げられると考える。

(1) 年1回行われている現行の総合避難訓練の抜本的拡充

現在行われている総合避難訓練は、本邦の法令である消防法第8条に基づき行われているものであるが、右訓練は、法の求める基準を満たしており、その限りでは問題がない。とはいえ、現在行われているレベルの訓練の実施により緊急事態が発生した際に避難誘導が確実に行われ人的損害を完全になくすることができるかについて監事は疑問を持っている。Le hasard ne favorise que les esprits préparés. 又は Chance favors the prepared mind. は細菌学の父と言われるルイ・パスツールの有名な言葉であるが、言い換えるなら、準備している以上又は練習以上の好ましい結果は出ない、ということである。

監事は、現行の総合避難訓練については、1) いくつかのシナリオを用意し、そのシナリオに沿って避難場所を変更したり、場合により複数の避難場所を用意すること、2) 見学客の避難誘導経路についても上記シナリオに沿って想定しておき、関係者に周知徹底しておくこと、3) 避難訓練に併せ安否確認訓練（本学が利用しているSECOMの緊急メールシステムの利用が考えられる）を行うこと、4) 本学への着任者については、新人オリエンテーションの場で勤務場所に近い避難出口を確認するよう指導すること、5) シーサイドハウスや近く開設予定のOIST臨海施設についても訓練を行うこと、特にOIST臨海施設については、臨海部に建設されていることから津波災害を十分に想定すること、6) 各職員が自分の役割を認識し、災害時に避難経路がすぐ思い浮かぶよう避難訓練を年2回以上行うこと、などの検討が必要と考える。

(2) 避難誘導に関わる学内の表示版などの総点検

本学の美しい建築意匠は、訪問する多くの者に強い印象を与える。このことは、本学に働く者の本学への愛着を高め、また誇りともなっている。その一方で、監事は、今回、学内を実査し避難誘導表示や避難口の大多数を確認したが、こと緊急時の避難という観点からすると、避難出口がやや分かりにくいのは否めず、またこれを補うべき避難誘導表示等も検討を要するも

のが多いと結論せざるをえない（別表3）。

監事は、1) 避難誘導表示の多くが、身長が低い者でも見えやすい場所に分かりやすい形で設置されていないこと、2) フロアごとの案内図に、消火器及び消火栓の表示がないものが一部に見られること、などの問題を発見した。監事は、この際、学内の避難誘導表示の総点検を行い、必要ならば、躊躇なく避難表示を分かりやすく設置すべきであると考え。また、本邦における公共施設の多くは、各部屋・フロアごとに防火責任者を定め、施設内の所定の場所に掲示している。本学においても併せてそのような措置を検討すべきである。なお、学内の点検を行い具体的な改善策を策定する際には、本学のエリアを所管する消防署の助言を得ることも有益であると考えるので申し添える。

(3) 緊急事態発生時の本学関係者に対する緊急連絡

地震、津波などの緊急事態発生時には、国や自治体からの緊急速報がその地域にいる者の携帯電話に対し緊急速報メールとして発信されるが、沖縄では基本的には日本語によるものであり、英語での発信はなされていない。非日本語話者が多い本学においては、この問題への対応は喫緊の課題である。監事は、当面は、上記 SECOM の緊急メールシステムを活用し、複数の本学の者が当番を決めて即座に当該情報を英語に翻訳し、学内に発信することが適当であると考え。その際には、言うまでもなく oist-all によるメールの発信も同時に行うべきであろう。

(4) 緊急事態対応に関する総合的な計画（「危機管理計画」）の策定

多くの国内外の大学では、危機管理に関する計画を策定している。監事が警見する限り、米国では、デューク大学、テキサス大学オースティン校、コーネル大学などが優れた計画を策定している。例えば、デューク大学の「Emergency Management Plan」（別表4-1）では、緊急事態のレベルの分類から始まり、緊急時に中心的役割を果たす緊急事態コーディネーターの役割、招集される会議体のメンバーと任務、代理者の順位などが簡潔に記載されている。

国内では千葉大学の「災害対策マニュアル」（別表4-2）が目を引く。千葉大学では、緊急時に発足するチームが、渉外・広報、避難住民対策、物資対策、安否確認、施設対策となっており、それぞれの果たすべき役割と任務が記載されている。本学は、災害時に恩納村の近隣住民の避難の場となる可能性もあり、上記の避難住民対策などは特に参考になろう。

本学においても早急にこのような危機管理計画の策定に取り組むべきである。なお、監事は CDC の緊急事態対応に係るマニュアルは、あくまで CDC に限定したものであるものの、かなりの完成度であると評価する。

寺田寅彦によるといわれる格言に照らして言えば、我々は、「災害を忘れて」はいない。しかし、災害などの緊急事態はいつ起こるかは誰にも予測できない。本学が一体となってこの問題に一刻も早く取り組むことを、監事としては強く求めるものである。

3 人事管理及びその関連事項

(1) 職員の採用及び障害者雇用の促進

事業計画に明示された職については、その採用が行われた。

また、「障害者の雇用の促進等に関する法律」(略称：障害者雇用促進法)は、第43条において一般事業主の雇用義務等を定め、その雇用する身体障害者又は知的障害者である労働者の数が、その雇用する労働者の数に障害者雇用率を乗じて得た数以上であるようにしなければならない等を定めている。本学は特殊法人等であり、政令で定められている障害者雇用率は2.3%である。これに対して本学の障害者雇用率は3.19%となっており、政令で定められた雇用率を上回っている。

(2) 昇任管理

昇任管理のシステム自体は確立されている。なお、職員のポストの名称については、やや明確性や統一性を欠くものがあると認められるが、組織全体の整合性を図る観点から、今後HRにおいて必要な調整を図る予定であるとマチ・ディルワース副学長は説明する。

(3) 勤務時間管理

過度の超過勤務により職員の心身の健康を害することのないよう、月当たり80時間を超える勤務を行った職員については、医師の診察を義務づけている。一方、不正な勤務時間の申告による給与の不当な利得などが万一判明した場合、対象額を返納させるとともに、是正の指導や服務規律上の処分を行うこととしている。

(4) メンタルヘルス対策

職場内カウンセリングルームであるがんじゅうサービスは、学内において悩みを抱える者を対象に積極的にその利用を呼びかけている。特に、傷病で休暇を取っている者には個別にレターを送り、同サービスの利用を促している。なお、昨年、労働安全衛生法の改正により導入されたセルフメンタルチェックについては、法に定められた期間内の実施に向け、その具体案を作成中である。

(5) 職員の能力開発

人事マネジメントセクションでは、希望者を対象にビジネススキルの向上を中心とした研修プログラムを用意しているほか、全員に受講義務がある着任時のオリエンテーションやセクシャルハラスメント防止研修を実施している。なお、受講義務のある着任時のオリエンテーションは受講率がほぼ100%であり、セクシャルハラスメント防止研修についても90%を超えている。

今後は、既に試行的に開始されている管理職層を対象にしたマネジメント研修を本格的に実施すべく検討中である。

(6) リロケーション支援

本学では、本学に赴任する教職員の引っ越しや定着支援のために手厚いサービスが提供されている。このようなサービスを受けた者の満足度は極めて高く、ややデータが過去に遡るが、2013年度アンケートにおいては、実に96%の者が満足したと回答している。このような支援がOISTでの勤務を決意するに当たってどのくらいの影響を及ぼしたかは定かではないが、本学の声価を高らしめる要素の一つになりうることは容易に想像できることである。

一方、今後更に本格化する本学の拡大期にあつて、現行の体制で、同一のサービス水準を維持することはほぼ限界に来ており、関係するセクション間での役割分担について検討を行うことが必要になっている。マチ・ディルワース副学長は、現在、人事マネジメントセクションと本学リソースセンター及びリサーチ・アドミニストレーターとの間でのリロケーション支援に係る適切な役割分担案の策定を進めていると説明する。

監事は、人事管理及びその関連事項について、概ね適切な運営がなされていると認める。

また、マチ・ディルワース副学長において検討されているいくつかの改革案の方向性について賛意を表明する。

4 正規学生及び教職員以外の関係者に関する現行の学内規程等と問題発生時の対応

本学の拡大・発展とともに、教職員や学生の他に多くの人々（JSPSフェロー、特別研究学生、リサーチ・インターン、事務部門に所属する研修生・インターン等をはじめとする人々）が本学の様々な活動に参加し又は関わるようになってきている。

このような人々について、学内の規程等においてどのような定めが置かれているか、その処遇はどのようになっているか、更には何らかのトラブル（自然災害、事故及びいわゆるパワハラ、セクハラ等）が発生した場合に、損害回復や補償についてどのような要領で対応が取られることになるのか等について、関係するVP等にインタビューを行った。

別表5は、監事室が学内の規程及び上記インタビューに基づき、本学に関わる人々の種別ごとにその地位を規定する規程の有無、処遇の具体、何らかのトラブルに備えた措置等について整理したものである。関係するVP等からは、この表に掲げる様々なグループの人々について次のようなコメントがあった。

- (1) アドミ部門において何らかの事務に従事しており、いわゆる「インターン」と呼称される事務国際化研修生（VPAC）、事務インターン（VPCPR）及びサイエンスコミュニケーションインターン（VPCPR）のうち、事務国際化研修生については、本学の定めである「大学事務国際化研修規程」及び同ガイドラインに基づき送り出し機関との協議を行った上で本学が受け入れている者であるが、送り出し機関の身分を保持したまま本学の業務に従事している

ため、特に問題は発生していない。また、事務インターンは、大学（就職部）のイニシアチブに基づき大学生の就職活動の一環として行われる職場体験活動の場の一つとして本学が選ばれているに過ぎず、議論すべき問題はない。サイエンスコミュニケーションインターン（VPCPR）も名称はインターンではあるものの身分は本学の非常勤職員であり、これも特に問題はない。

- (2) 研究（ユニット）部門においては、JSPS フェローという身分の者が存在する。この JSPS フェローは、厳しい選考過程を経て、優秀な研究者もしくは研究者になりうる者が選定される制度であるが、本学においては、研究者（ポストドクトラル・スカラー等）の身分の者と学生の身分の者が存在する。いずれも選定された場合、制度を所管する日本学術振興会より金銭的な給付を受けることになるが、前者の研究者については、より優秀と目される研究者であるにもかかわらず、JSPS フェローとして受けることができる給付の水準が OIST の研究者に対する住宅手当等を含めた一般的な給付の水準を下回るという現象が起こっている。なお、JSPS フェローについては、PRP 及びその下位の規則において何らの定めも存在しない。

また、研究部門においては、客員研究員、共同研究員、外部機関に所属するもののサバティカルによる研究従事者、その他の招聘者など、様々な人々が本学で活動を行っており、その区分は、別表 6 の通りである。表に掲げてある通り、この区分は滞在期間の長短等によってカテゴライズされており、短期滞在のゲスト以外は何らかのアグリーメントや共同研究契約が求められている。

- (3) 正規学生以外のいわゆる非正規学生については、いずれも PRP で位置づけが明確にされており、大きな問題はない。
- (4) 上記別表 6 に従い、短期滞在のゲスト以外の長期滞在者については、学内通行のための身分証明書の発行や基本的なガイダンスを、現在、センター棟レベル C のレジストレーションデスクで行っている。

監事は、正規学生及び教職員以外の関係者について、概ね妥当な取扱いがなされていることを認める。一方、上記のコメントにも言及があるが、JSPS フェローについては、適切な処遇のあり方について検討を行い、その検討結果を含め、PRP 又はその下位規則において JSPS フェローに関する定めとして置くことが必要である。

また、レジストレーションデスクにおいては、別表 6 の区分に従い事務を行っているが、この別表 6 は単なる執務指針に過ぎず、PRP 及びその下位規則に基づくものではない。この際、この別表 6 を PRP 又はその委任を受けた下位規則等において規定するとともに、OIST において何らかの研究活動に従事する者が本表に掲げる区分のいずれかに必ず該当することとなるよう、随時点検と見

直しを行う必要があると考える。監事は、本学におけるこれら関係者の取扱いが適正であるか引き続き注視していく。

5 ジェンダー・イコーリティー

ジェンダー・イコーリティーの推進は、今や社会的要請であり、本学の掲げるコア・バリューを具現化する上でも重要である。

本学では、男女共同参画委員会や出産・育児に関連した休暇制度に関するワーキング・グループなどでの議論を踏まえ、学長の指揮の下、マチ・ディルワース副学長がセミナー・研修会、各種イベントの開催、教職員の採用・昇任に当たっての啓発など様々な取組を実施している。

監事は、種々の取組が積極的に行われていることを評価する。なお、セミナー、研修会及び各種イベントについては、慎重に設計されたアンケートなどの手段により、参加者の意識変化が参加後に見られるかどうかについて正確な測定を行うよう求めたい。

また、マネージャー以上職の男女比率の適正化については、取組の結果、好ましい成果が現れていると認められるが、教員の男女比率についても取組の成果が早期に現れるよう一層の努力を求めたい。

6 事業開発・技術移転

事業開発・技術移転に係る実績値は別表7の通りである。なお、基礎研究を産業開発に結びつけることを目的としたプロジェクトであるPOCについては、2016年度に本格的に始動する予定となっている。また、知的産業クラスターの基礎となる支援プラットフォームの形成については、現在、県庁との間で議論が続けられている。

監事は、事業開発・技術移転の取組について、確実に成果が上がりつつある状況と認める。POCについては、2016年度の取組の成果を年度末に改めて検証することとしたい。なお、知的産業クラスターの基礎となる支援プラットフォームの形成については、県庁との間での検討を加速することを求めたい。

7 外部資金調達

外部資金は大きく1) 競争的研究資金(学術研究助成基金助成金/科学研究費補助金。いわゆる科研費)、2) 事業開発による資金、3) 民間あるいは財団からの寄付金の3種類に分けられる。この外部資金のうち、競争的研究資金である科研費は、2014年度までの5年間で申請件数、採択率とも増加傾向を見せている。また、事業開発による資金も堅調に推移している。更には、

民間あるいは財団からの寄付金も、総額において2014年度から大きく増加を見せる予定である。しかしながら、これらの数字を合計しても2014年7月に本学が公表した「枠組み文書Ⅱ」に示された目標値とはなお乖離があるのが現状である。このような現状を踏まえ、本学は2015年11月に「外部資金強化に向けた取組」を策定し、外部資金の更なる獲得に向け重点となるポイントを定め強力に取り組むこととした。

監事は、当面は「外部資金強化に向けた取組」を着実に実行していくことが、外部資金の調達にとって最も有効な手立てであると判断する。その際、いわゆる科研費については、自らの研究活動の意味を説得的に示す競争であるという積極的な意義を各研究者に理解させ申請者数の増加を促すとともに、「世界最高の科学技術研究拠点」を目指す本学にふさわしい大型の申請案件を出すよう努力すべきである。単に獲得総額の増加にのみ目を向けることは望ましいとは考えないので、念のため付言しておく。

8 教員の人事管理

教員の採用・テニユア審査及び評価については、2014年度にケン・ピーチ前学監の主導により整備されたマニュアルに基づき行われている。しかしながら、実際の運用の中で若干、改善すべき点が明らかになったため、2016年の5月理事会の議を経て改正される見込みである。

監事は、アーバスノット学監からの説明及び関係書類の一部の閲覧の結果、教員の人事管理は概ね適切に行われていると判断する。

9 学生の就職支援

学生の就職支援については、現在、6つの取組が始まっている。即ち、1) 個々の学生に対する就職相談・支援、2) 履歴書・研究業績書作成に関するワークショップの開催、3) ニュースレターの発行、4) プロフェッショナル・ディベロップメント科目の開講、5) 教育活動の機会提供、6) スキル・ビル授業の開講、である。ジェフ・ウイッケンス大学院担当ディーンは、日本における就職を希望する学生を念頭に、日本語スキルの向上に向けた支援もまた検討の視野に入っていると説明する。

監事は、学生の就職支援に関して適切なプログラムが開始されていることを歓迎する。

10 研究機器等の運用実績及び外部者の利用手続の整備

研究機器の運用実績については、取得価額5000万円以上の研究機器を対象として利用実績を記した資料の提出を求めこれを精査したが、明確な理由なく有休化している研究機器など予算の

不適切な執行となっているものは発見できなかった。また、PRPの規定を受けた外部者の利用手続に関する規則については、現在、未策定である。

研究機器の利用については、その基本原則はPRPに定めがあるものの、その詳細を定めた規則は未だ策定されていない。監事は、外部利用者が利用する際の具体的な手順を含めた規則の策定を早期に行うよう強く求める。

11 内部監査

(1) 内部監査

2015年度に実施した内部監査は次の6テーマである。

- ・契約方式・契約内容
- ・競争的資金
- ・共同研究の管理
- ・固定資産
- ・役員・ファカルティの旅費について
- ・変更契約時の処理

いずれもその結果は学長に提出され、何らかの改善を要する問題については、必要な措置が進められることになるが、このうち、「役員・ファカルティの旅費」については、既に出張報告書の提出や出張の全日程に係る上長及び旅費チームの承認の義務化、事故・事件発生時の安否確認ルールの明確化などを内容とする勧告が出され、具体的な措置が取られつつある状況である。

(2) コンプライアンス研修

コンプライアンスの遵守は、本学を構成する全ての者に厳しく求められるものであり、このような観点から、コンプライアンス研修の受講は本学全構成員に対する義務となっている。同研修の受講率は、2015年度実施分については78%となっており、この数字は決して低いものではないが、久保真季副学長は、一層の受講率向上に向け、e-frontシステムを活用した受講履歴の把握とこれによる受講の効果的督促、受講が過度の時間的負担とならないようカリキュラムを見直すこと、などに取り組みたいとしている。

(3) 契約監視委員会

契約監視委員会は、本学が諸物品を購入する際の契約手続が適正に行われているかにつき外部有識者の参集を求め、右有識者が任意に抽出した契約案件の合法性及び妥当性について審議・確認を行うことを目的とする委員会であり、監事もオブザーバーとして出席している。この委員会の運営について改めて議事録概要等を精査したが、特段の問題は見られなかった。

(4) マイナンバー制度導入の準備状況

2015年10月以降、住民票を有する全ての国民に通知されるマイナンバーについては、本学の業務運営にも相当の影響を与えることが予想されるが、同年9月には本学構成員に対する制度概要の説明が行われるなど本学における準備状況は現在まで適切に推移している。また、同年12月には実務担当者を対象とした制度運用に関し具体的な要領を解説する研修会が行われた。

監事は、内部監査が十分に機能していると評価する。また、マイナンバー制度導入についても適切な準備の結果、大きな問題は生じていないと認める。

12 個人情報保護

監事は、学内の全セクション等を対象に、個人情報保護に関するチェックリストを配布し回答を求め、更にこの回答結果を「個人情報保護に関するガイドライン」を所管する久保真季副学長に送付し、その所見を求めた。これと並行し、監事は、何らかの形で個人情報を保有しているとみられる人事マネジメントセクション（教職員に関する個人情報）、カンファレンス・ワークショップセクション（セミナー参加者に関する個人情報）及び学生支援セクション（学生に関する個人情報）について実査を行い、関係者に質問を行った。

全セクション等からの回答、これを踏まえた久保真季副学長の所見及び実査の結果を総合的に勘案すると、本学における個人情報保護は、概ね適切に実施されているとみられる。

なお、日本にある大学のうち、神戸大学、小樽商科大学及び愛媛大学において防犯カメラの運用について内規を定めていることが確認され、本学において何らかの内規の策定を行う場合、参考になり得ると考えるので、申し添える。

13 PRP の整備

現行のPRPは、2011年10月に学園が発足する前後の短時間の内に英語及び日本語のテキストがPRP各章に係る事務を担当する各PRPホルダーによって起案され、学長の決裁の下制定された。

現行のPRPに関し、日本語水準の向上や日英のテキストの間の整合性確保についてどのような改善方策が検討され又は実施に移されているか、また各PRPホルダーの案文起案能力向上に向けた方策について検討は始まっているか、について、PRPライブラリを管理する責にあるアドミニストレイティブ・コンプライアンス・ディビジョンの小桐間徳准副学長にインタビューにおいて確認したところ、以下のような説明があった。

(1) 日英両方のテキストの内容に一見して不正確なものがないか、また、日英テキストの間に

内容の整合性が図られているかについては、法令セクションが中心となって、現在までに制定されている PRP 全テキストの総点検を行っているところである。当面は全職員に影響のある 30 章から 41 章の修正を行う予定である。

- (2) PRP の起案について一義的に責任を負うべきなのは、PRP 各章に関係する事務を担当する各 PRP ホルダーである。しかし、PRP ライブラリを管理する立場にあるアドミニストレイティブ・コンプライアンス・ディビジョンの立場から見ると、各 PRP ホルダーの PRP 起案能力については均一ではなく、適切な案文を作成する能力の向上に向け、各 PRP ホルダー及び右ホルダーを補佐するスタッフに対し支援を行う必要性を痛感しているところである。アドミニストレイティブ・コンプライアンス・ディビジョンでは、この観点から各 PRP ホルダー及び同スタッフに対し PRP の重要性を認識してもらいかつ起案能力を向上させるため、PRP の意義及び基本的な起案方法を解説するような学内でのセミナー開催を検討している。

監事が瞥見した限り、現行の PRP のテキストについては、表記や表現の適切性、日英間の翻訳の正確性などについて改めて点検を行うべきものが多いと考えられる。

監事は、小桐間徳准副学長の説明にある取組の方向性を支持するが、PRP に関わる問題は、最終的には PRP ホルダーを含めた OIST メンバーの「ルール」についての「意識」に帰着するとの考えを持っている。そのような意味からは、この問題は根気強い対応が求められるものであり、定期的な注意喚起や対象者を明確にした実務的なセミナーの継続的な開催など一過性にとどまらない継続的な取組を求めたい。

14 予算・財務管理

(1) 資産管理

資産管理については、PRP 及び固定資産マニュアルが整備された。従前は、研究ユニットの長の責任が明確でなかったが、改正 PRP では、使用責任者として位置付け、その旨が明示されている。

また、適正な資産管理に関する意識啓発の一環として、昨年 12 月には実査の説明会で、また今年 3 月には新情報システム (HEART) の研修会場で改めて厳正な資産管理のあり方について説明を行った。高梨桂治副学長は、このような研修による意識啓発は今後も継続していきたいと説明する。

(2) 調達

高額研究機器の調達について、特に海外メーカーから機器を購入する場合、総代理店や子会社による独占販売という商慣行に阻まれ、価格交渉が困難になるケースも多い。高梨副学

長は、現在でもできる限り安く購入するため、可能な限り海外から直接買い付けるなどの策を講じているが、大学間で研究機器購入のためのコンソーシアムを構築することなどを含め様々な調達方法の改革を積極的に模索していきたいとする。

(3) 旅費

旅費は、不正が起きやすくまたその不適切な使用は学外からの強い批判を浴びやすい予算項目である。高梨桂治副学長は、本学内部監査部門から出された上述の勧告を受け、現在、旅費ハンドブックの改正などを準備していると説明する。

監事は、資産管理について、適正な取組がなされていると認める。言うまでもなくこのような取組は一過性のものに終わらせてはならず、継続的な努力が必要であると考えます。

また、調達に関しては、高梨桂治副学長のもと、Value For Money の考え方にに基づき、様々な改革方策が模索されていることを歓迎する。改革後の姿は未だ具体的な形には至っていないが、合規性に安住せず、調達価格の低減に取り組む姿勢は高く評価したい。

旅費については、今回、内部監査の勧告をきっかけとして、一定の改革が行われることになったが、旅費の適正かつ効率的の使用に向け、更なる努力を期待したい。なお、監事は、特に留意すべき点として、1) PRP や旅費ハンドブックなどの諸規定について絶えず点検を行うこと、2) 個別の旅費項目のみならずトータルコストにも目を向けたチェック方策について検討を進めること、があると考えるので参考まで付言しておく。

15 キャンパスの建設と施設管理

(1) キャンパス建設

未だ拡大期にある本学にとって、キャンパスの建設を確実に進めることは引き続き重要な課題である。2015 年度に建設に着手し、今も建設が継続しているのは、海洋研究の拠点となる予定の OIST 臨海施設（恩納村瀬良垣漁港）と研究に必要な各種作業を行うエンジニアリングサポートビル（キャンパス敷地内）である。いずれも当初予定では、2015 年度内に完成する見込みであったが、前者は、今年 6 月から供用開始予定、後者は同 10 月からの予定となっている。

また、第 4 研究棟については、周辺整備を含め計 113 億円の総予算で建設が進められることとなっており、2015 年度から基本設計が着手されている。

(2) 車両に関わる問題

本学は、リゾートエリアである恩納村に所在し、都市部からは離れた位置にある。したがって、本学からの各所への移動は、公共交通機関たるバス、タクシーが利用しうるとしても、多くの場合、乗用車に頼らざるを得ない。一方で、学園の拡大に伴い駐車スペースの確保が

大きな問題となっているほか、学内の交通安全や不審車両の同定など車両にまつわる様々なセキュリティのシステムが整備されているとは言いにくい状況である。アリ・ガンジロー副学長からは、このような点については十分に認識しており、まずは、車両に関わる諸問題についてコンサルティング会社に依頼し、全ての問題点の洗い出しと解決方を研究させ、それを基本に具体的な対応策を考えていくことにしているとの説明があった。

学園の建設については、建設単価が高止まりをしている現状で、工期を遅らせずに、かつ予算を超過せずに竣工させるかが大きな問題となる。特に第4研究棟の建設については、示されている総予算額は必ずしも余裕がある類とは言えず、期待されている水準の同施設を予算内で完成させられるかについて本学内外から注視されている。監事は、このような状況を踏まえ、施設建設の途上において随時、その状況を本学内外に十分に説明し、疑問には誠実に回答する機会を設けるよう求めたい。

次に、車両に関わる問題であるが、監事は、車両の管理は、あくまでその車両の所有者あるいは運転者が責任主体となるべきであり、何らかの事故があった場合の責任も当事者たる車両の所有者あるいは運転者に一義的に帰属することをまず確認しておきたい。

一方で、監事は、十分な駐車スペースの確保、環境問題を念頭に置いた公共交通機関の積極的利用、事故があった場合の責任関係の明確化という観点からの業務中における公用車両の利用促進、学内の交通安全の確保、不審車両の同定など本学が車両にまつわる様々な問題に関して検討・決定すべきことは多いと考える。特に、学園の拡大に伴いヒト・モノ・クルマの往来が更に今後活発化することを考えると、この問題への対応は急務である。その意味から、ガンジロー副学長の示す対応策は支持するが、併せてこの問題は、例えば不審車両の特定の場合、人事マネジメントセクションなどの協力が必要になることにも改めて注意を促したい。

16 広報と地域連携

(1) 研究成果の公表

本学で行われている最先端の研究活動を広く社会に紹介することは、多額の国費が投入されている本学の活動について納税者たる国民への説明責任を果たす観点から、また本学への一層の支持や信頼を獲得する上でも、極めて重要なものである。

2015年度中に本学がプレスリリースの形で公表した研究成果は41であり、これらが各メディアに掲載された件数は合計で実に805にも上る。

特にタコのゲノム解析に係る研究成果は、国内のみならず、海外でも大きな反響を呼び、世界的に威信のある科学雑誌に掲載されたほか、各メディアへの掲載件数はこれのみで138件となり、本学の研究レベルの高さを世界に十分に示す例となった(別表8)。

研究成果の公表は、ただ漫然と外部に資料等を配付するだけでは十分に広報の実を上げることはできない。ニール・コールダー副学長は、1) 各研究ユニットに対する本学ウェブサイ

トや SNS での研究成果公表への働きかけ、2) 地元新聞との定例会議の開催、3) 記者会見や記者懇談会の随時開催、4) 記者会や主要メディアへの訪問等を通じた友好関係の構築と働きかけ、などの取組を強化する中で、上記のような成果がもたらされたと説明する。

(2) 地域連携

地域連携活動は、本学に対する支持や理解を拡大する目標の下、展開されており、見学プログラム、科学イベントの開催、地域・文化活動に係るイベント等から構成されている。このうち、2015 年度の見学プログラムについては、2016 年 2 月末で 26000 人以上の訪問者を受け入れるまでになっている。また、こども向け科学教室を始めとする科学イベントも回を重ねるにつれその知名度を上げ、多くの参加者を集めるようになってきている。

地域イベントに関しては、複数回の音楽コンサートのほか、地元恩納村民を対象に、初の試みとして夏祭りを開催した。その際、企画運営を村、むらおこし協議会及び谷茶区との協議で進め、恩納村関係者からも高い評価を得た。

ニール・コールダー副学長は、今後は、イベントの開催に当たり、より「質」の高い行事に重点を置いて取り組んでいきたいこと、これまでも進めてきたところであるが、今後、一層、琉球大学をはじめとする県内大学や関係機関と連携しながら各種イベントの企画運営を行っていききたいと説明する。

監事は、本学で取り組まれている広報及び地域連携の活動がその目的に照らし十分に行われ、本学への理解と支持に大きな役割を果たしていることを歓迎する。また、ニール・コールダー副学長が示す地域連携活動における今後の方向性について賛意を表明する。

17 情報セキュリティ

本学における情報セキュリティについて確認したが、大きな問題は認知されなかった。

監事は、昨年導入されたマイナンバー関連のセキュリティを含め、現段階では大きな問題が起きているとは考えないが、より専門的な観点から検証を行うことが望ましく、今後しかるべき時期に専門家による IT 監査を行うべきと考える。

18 新しい情報システム (HEART)

新しい情報システム (HEART) は当初の予定通り本年 3 月 22 日に始動した。

監事は、新しい情報システム (HEART) は、現在まで大きなトラブルなく稼働していると考えられるが、上記情報セキュリティの問題と併せ、今後しかるべき時期に専門家による IT 監査の対象とす

べきと考える。

19 CDC

学内保育施設たる CDC に通う児童数は確実に増加しており、2016 年 1 月には 80 人を超え、同 6 月には開設当初の想定児童数である 100 人に達する見込みである。

また、昨年の会計検査院の実地検査において業務上の課題として提案があった会計処理方法の変更は、提案通りに是正されている。

監事は、CDC は適切に運営されていると認める。

総括

以上が年度監査の所見である。今後一層の努力が求められる点は認められるが、OIST の業務運営については、現在のところ概ね適切に行われていると総括できる。

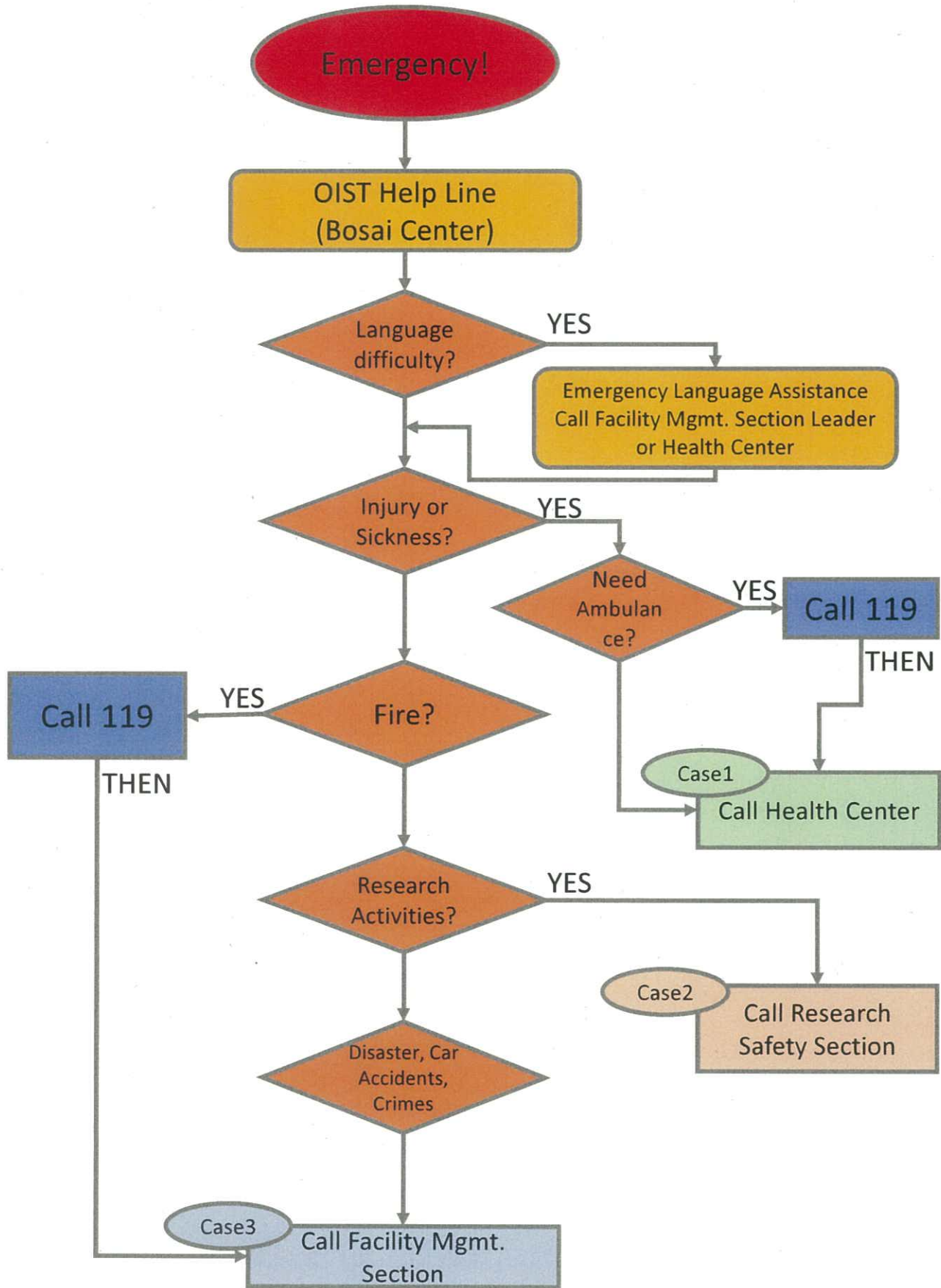
2011 年の学園発足から OIST はまもなく 5 年を迎え、県内、国内及び世界に本学の声望が確実に広がりつつある。沖縄の格言にも「人の高や世間人ぬどう計ゆる（ちゆぬたきや うまんちゆぬどぅはかゆる）」（自分の価値は世間が決める。人に認められなければ意味がない）というものがあるが、本学の歩みはそのような観点からしても順調なものであると言えるだろう。しかし、一方で、現在の本学に対する高い評価は、一度何か大きな問題が発生すればたちどころに消えてしまうはかないものであることも我々は十分に留意すべきであると考えます。

未だ拡大期にある本学にはこれからも様々な課題は立ち現れることになろうが、これからも本学一体となってそのような課題に敢然と立ち向かっていくことを監事としては期待したい。

最後に、トーステン・ヴィーゼル理事会議長を初めとした理事会各位の適切な指導と援助、ジョナサン・ドーファン学長や同学長の代理を一時的に務められたアルブレヒト・ワグナー理事の強いリーダーシップとそれを献身的に支えるエグゼクティブや一般職員の努力と監事が行う監査への協力に対し、改めて深い敬意と謝意を示すものである。

(注) 前記の通り、本監査報告は日本語が正本であるが、英語への翻訳に当たっては、ランゲージセクション所属ティナ・ムラルスキーの豊富な学識による適切な援助を得た。また、監査におけるインタビュー等の際には、同セクション所属の竹野内真理、遠藤妙子及び佐藤リサの正確かつ巧みな通訳により必要十分な意思疎通を行うことができた。特に記して感謝を表す。

Action in Bosai Center



別表 1. 緊急時の情報伝達経路



OIST OKINAWA INSTITUTE OF SCIENCE AND TECHNOLOGY

EMERGENCY, SAFETY, HEALTH PROCEDURES & GUIDELINES

1st CONTACT FOR EVERY EMERGENCY CALL "BOSAI" CENTER-098-966-8989 (on campus 18989)
BOSAI CENTER contacts the following depending on emergency types after receiving 1st contact as necessary

<ul style="list-style-type: none"> MEDICAL AND FIRE EMERGENCY 119 POLICE 110 	<p>IN CASE OF NON-EMERGENCY MEDICAL CONDITION</p> <ul style="list-style-type: none"> HEALTH CENTER 098-966-8945 (on campus 18945) FACILITY EMERGENCY 098-966-8989 (on campus 18989) 098-966-2076 (on campus 12076)
<p>MEDICAL FACILITY NEAR OIST</p> <ul style="list-style-type: none"> CHURU HOSPITAL 098-873-4111 SAKAGAMI HOSPITAL 098-939-1300 UNIVERSITY OF THE RYUKYUS UNIVERSITY HOSPITAL 098-895-3331 HOKUBU HOSPITAL 0980-52-2719 ADVENTIST MEDICAL CENTER 098-946-2833 	<p>INDUSTRIAL ACCIDENT/CHEMICAL/BIOLOGICAL/RADIATION SPILL EMERGENCY</p> <ul style="list-style-type: none"> RESEARCH SAFETY SECTION 098-966-2358, 8487, 1541, 2385 (on campus 12358, 18487, 11541, 12385)
<p>PHYSICS EXPERIMENTAL EMERGENCY</p> <ul style="list-style-type: none"> PHYSICS RESOURCES SECTION 098-966-1349, 2257 (on campus 11349, 12257) 	<p>EMERGENCY VETERINARY ATTENTION</p> <ul style="list-style-type: none"> ANIMAL RESOURCES SECTION 098-966-8934 or 8879 (on campus 18934 or 18879)



OIST OKINAWA INSTITUTE OF SCIENCE AND TECHNOLOGY

安全衛生に関する緊急時の対応手順及び緊急連絡先ガイドライン

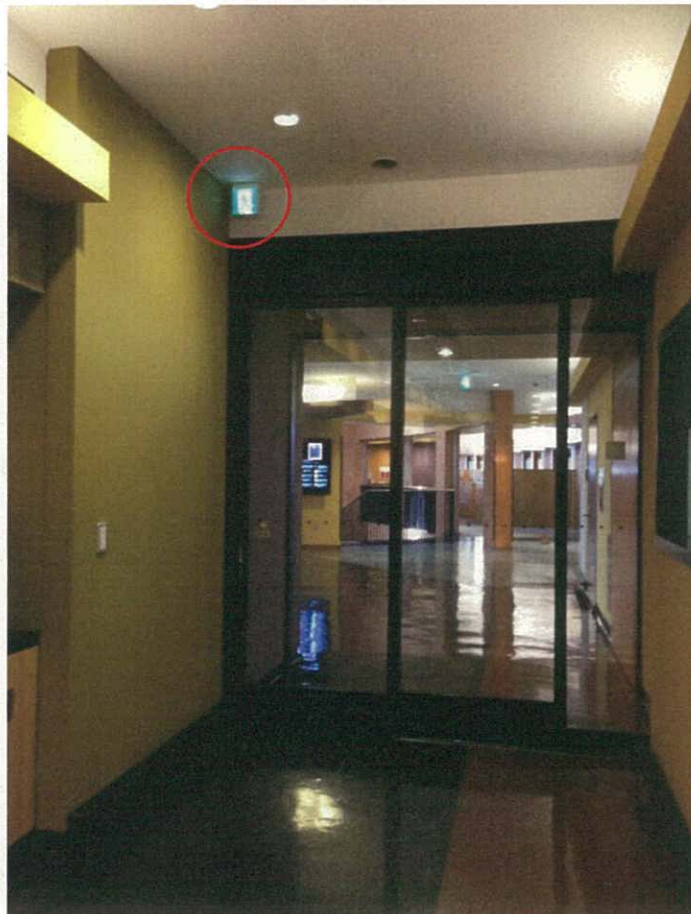
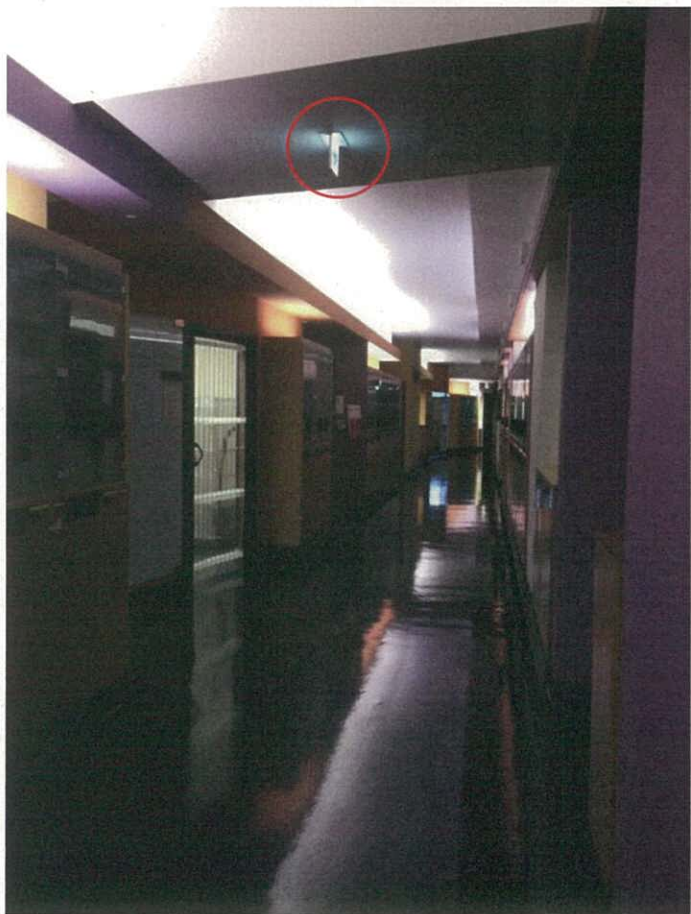
あらゆる緊急事態の第1次連絡先は"防災センター"です-098-966-8989 (on campus 18989)
防災センターは、緊急連絡を受けた後、必要に応じて下記の関係部署・機関と連絡を取り合いながら対応します。また、直接下記に連絡することも可能です。

<ul style="list-style-type: none"> 消防署 救急及び火災 119 警察 110 	<p>近隣の医療機関</p> <ul style="list-style-type: none"> 国立中央病院 098-873-4111 中城病院 098-939-1300 琉球大学医学部附属病院 098-895-3331 国立北那覇院 0980-52-2719 アソシエイトメディカルセンター 098-946-2833
<p>物理系実験に関する緊急対応</p> <ul style="list-style-type: none"> 物理系実験棟 098-966-1349, 2257 (on campus 11349, 12257) 	<p>非緊急及び応急措置</p> <ul style="list-style-type: none"> 防災センター 098-966-8945 (on campus 18945) 施設 延命処置の緊急事態 098-966-8989 (on campus 18989) 098-966-2076 (on campus 12076)
	<p>労働災害全般/化学物質/バイオセーフティ/放射線の漏えい対応</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究安全課 098-966-2358, 8487, 1541, 2385 (on campus 12358, 18487, 11541, 12385)
	<p>実験動物に関する緊急対応</p> <ul style="list-style-type: none"> 実験動物管理課 098-966-8934 or 8879 (on campus 18934 or 18879)

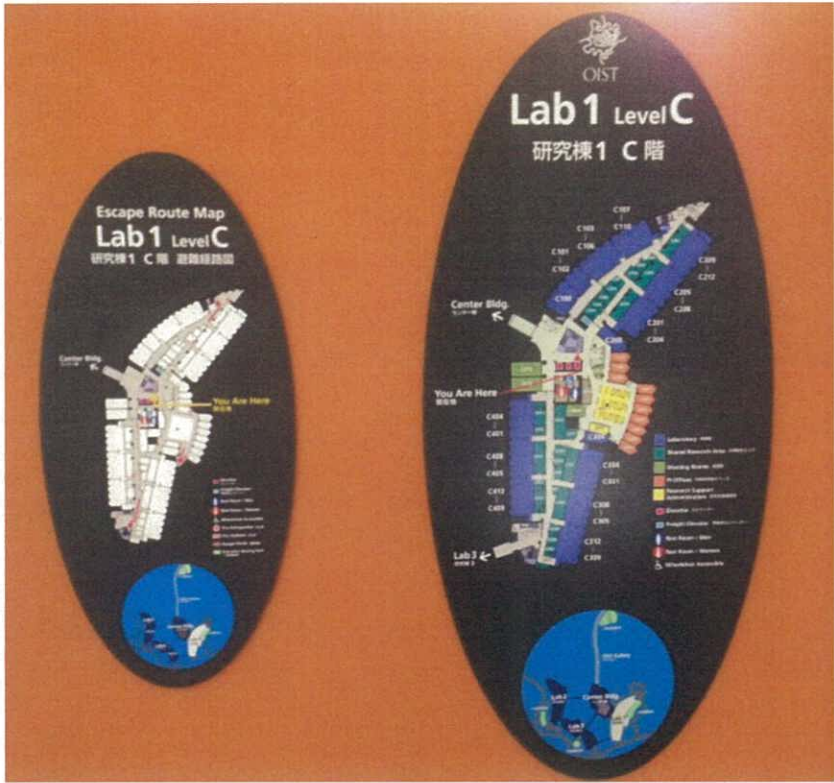
	Emergency Phone Numbers X18989
	Fire
	Evacuation
	Earthquake
	Injury / Medical Emergency
	Biological Spill
	Radiation Incident
	Chemical Spill or Gas Leak
	Dangerous Materials
	Research Animals
	Safety Responsibilities
	Potential Hazards in Research Areas
	Location of Emergency Equipment
	Escape Route Map

	緊急事態連絡先 内線18989
	火災
	避難
	地震
	怪我・病気
	遺伝子組換え生物又は病原体の汚染事故
	放射性同位元素に関する事故
	化学物質の汚染とガス漏れ
	危険物質
	実験動物
	安全責任
	実験エリアにおける潜在的危険
	緊急用具配置図
	避難経路図

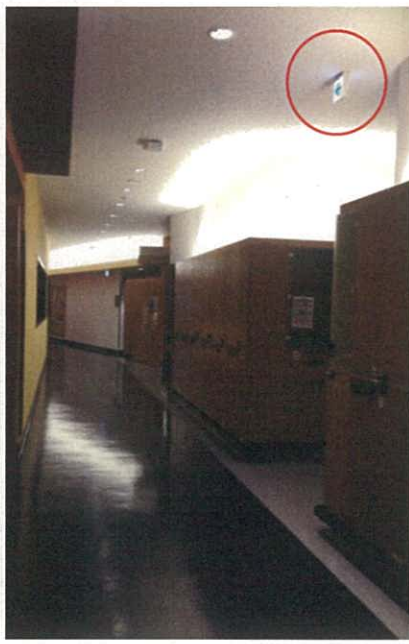
別表2. 安全衛生に関する緊急時の対応手順及び緊急連絡先ガイドライン



別表 3 - 1. 避難経路表示板。全て高い位置に設置されている



センター棟、第1研究棟では避難経路図は別図だが、第2、第3研究棟ではフロアマップと統合されている
 Escape Route Map and Floor Map are displayed separately at Center building and Lab 1, but they are consolidated at Lab 2 and Lab 3.



別表 3 - 2. 避難経路表示板、消火器
 Appendix 3-2. Emergency Exit Signs and Fire Extinguishers

Human Resources | Technology | Dining | Transportation | Stores | Facilities | Safety & Security | Campus Services | Academic Services

Duke ALERT

Search

- Emergency Status Home
- How You'll Be Notified
- What to Do In an Emergency
- Crisis Communication Plan
- Duke University Emergency Management Plan**
- Emergency Conditions Policy
- DUHS Emergency Site (DUHS Employees Only)

Duke University Emergency Management Plan

Updated: September 25, 2014

I. INTRODUCTION

Planning for the continuity of instruction, student activities, research, and patient care at Duke University in response to an emergency is a complex task. This Emergency Management Plan documents the framework, processes, and communications required for a successful response and recovery from an emergency incident.

A. Purpose

The purpose of the Emergency Management Plan is to:

- Help prepare Duke employees to respond successfully to an emergency situation;
- Define clear roles, responsibilities, and authorities for those involved in managing emergencies;
- Ensure that consequences of emergencies are adequately and expediently assessed from an internal and external perspective;
- Have a clear, rapid, factual and coordinated system of internal and external communication in emergency situations;
- Have effective coordination between the emergency management organizations of the university, the health system, and local, state, and federal authorities;
- Promote a culture throughout the university and the health system that both enables effective response in an emergency and helps prevent them through an open exchange of information about potential emergencies.

B. Scope

Emergency Response & Evacuation

For more information, review the [procedures](#) established for emergency response and evacuation at Duke.

ADDITIONAL RESOURCES

- Campus Services Updates
- Student Counseling Services
- Faculty/Staff Counseling Services
- Duke Police
- News Media Guidelines
- Maps



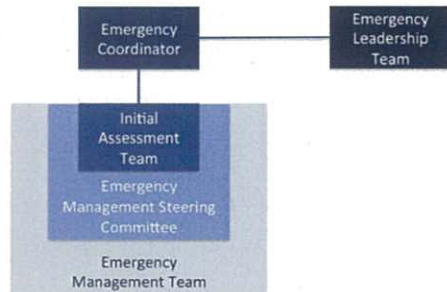
Emergency Response Plan

The Duke University Emergency Management Plan (EMP) is the university's emergency response plan. The EMP documents the framework, processes and communications required for a successful response to, and recovery from, an emergency incident. The plan includes descriptions of categories for classifications of emergency incidents, as well as specific responsibilities and actions by level. The EMP also discusses the role of Department Operations Teams (DOT) which are at the local department level or unit based.

Duke University police supervisors have received training in Incident Command and Responding to Critical Incidents on Campus. If a serious incident occurs that causes an immediate threat to the campus, the first responders to the scene are usually DUFD and the Durham Police. Depending on the nature of the incident, other campus departments could also be involved in response.

General information about the emergency response plan is available as part of the institution's Department website at <http://www.emergency.duke.edu/management/>

Emergency Management Structure

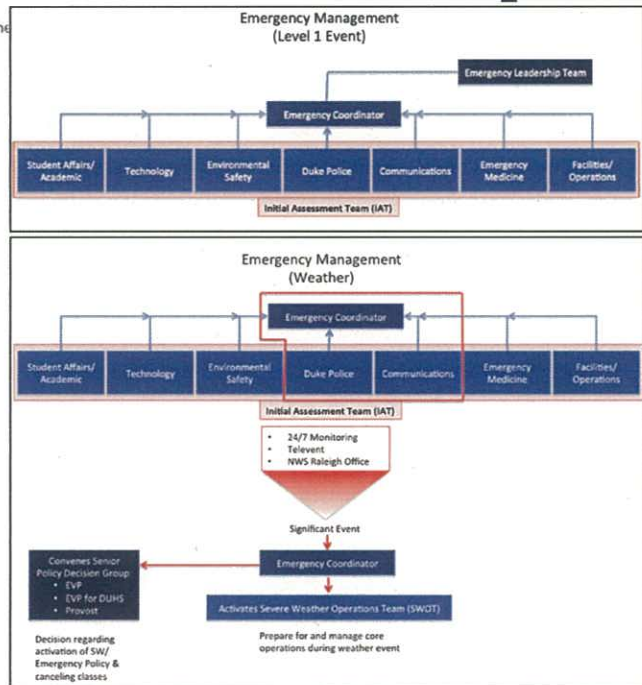


Duke University Police Department

University with a methodology and a protocol for managing:

city facilities in Durham, North Carolina and in other Duke offices and world;

Impact the



別表 4-1. デューク大学の緊急対応計画
Appendix 4-1. Duke University Emergency Management Plan
(<http://emergency.duke.edu/management/>)

www.chiba-u.ac.jp/bousaiweb/manual/index.html

検索

Home | Site Map | Contact

Google カスタム検索

千葉大学防災危機対策室
Chiba University
Disaster Prevention and Crisis Management Office

〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1-33
Tel: 043-290-2146 / Fax: 043-290-2148

学内の防災について (学生・教職員向け) | 災害対策マニュアルについて | 防災危機対策室について | 資料・リンク

Home | 災害対策マニュアルについて | 災害対策マニュアル

災害対策マニュアル

災害対策マニュアル

災害発生時は、各自割り当てられた役割に基づき、業務を遂行して下さい。
尚、マニュアルは災害時の行動の指針とし、臨機応変、的確に対応して下さい。

千葉大学防災対策本部行動マニュアル

- ▶ 災害対策本部組織図
- ▶ 部局班 (部局対応班)
- ▶ 渉外班 (渉外広報班)
- ▶ 住民班 (避難住民対策班)
- ▶ 物資班 (物資対策班)
- ▶ 安否班 (学生・教職員対策班)
- ▶ 施設班 (施設対策班)
- ▶ 救護班 (救護衛生対策班)

千葉大学防災危機対策室
Chiba University
Disaster Prevention and Crisis Management Office

学内の防災について / About Disaster Prevention Management on Campus
災害対策マニュアルについて / About Manual of Disaster Prevention Management
防災危機対策室について / About Disaster Prevention and Crisis Management Office
資料・リンク / Access, Links

Copyright (C) 2012 - 2018 Chiba University Disaster Prevention and Crisis Management Office all rights reserved.

別表 4-2. 千葉大学災害対策マニュアル (千葉大学防災危機対策室ホームページ)
Appendix 4-2. Disaster prevention manual at Chiba University (Chiba University Disaster Prevention and Management Office Website)
(http://www.chiba-u.ac.jp/bousaiweb)

	規定の有無 PRP	身分保障 身分の得喪	服務規程 職務規律	給与	福利厚生	保険	補償(f)	
							勤務時間の長さによって変わる	
職員区分								
1 役員	PRP 22.8.7	○	○	○	○	私学共済	○	
2 事務職員(常勤)	PRP 30.2.2.3.1	○	○	○	○	私学共済	○	
3 事務職員(非常勤)	PRP 30.2.2.3.2	○	○	○	○	私学共済	○	
4 事務職員(派遣)	○	雇用元	○	雇用元	雇用元	雇用元	○	
5 事務職員(出向者受入/県庁・冲銀)	なし	雇用元	○	雇用元	雇用元	雇用元	○	
6 事務国際化研修生	OIST規定	雇用元	○	雇用元	雇用元	雇用元	○	
7 事務インターン/ITインターン(琉大・高専学生)	なし	n/a	○	n/a	n/a	雇用元	○	
8 サイエンスコミュニケーションインターン	PRP 30.2.2.3.2	○	○	○	○	私学共済	○	
研究員区分								
9 教員	PRP 4.2.1/30.2.2.3	○	○	○	○	私学共済	○	
10 ポストドクトラル・スカラー	PRP 4.2.2/30.2.2.3	○	○	○	○	私学共済	○	
11 スタッフ・サイエンティスト	PRP 4.2.3/30.2.2.3	○	○	○	○	私学共済	○	
12 リサーチ・スペシャリスト	PRP 4.2.4/30.2.2.3	○	○	○	○	私学共済	○	
13 技術員	PRP 4.2.5/30.2.2.3	○	○	○	○	私学共済	○	
14 サイエンス&テクノロジー・アソシエイト	PRP 4.4.1	○	○	○	○	私学共済	○	
15 JSPS Fellows (研究員)	なし	JSPS	JSPS	n/a (JSPS)	JSPS	国保(海外旅行保険) + 学研災 + 学研賠	○	
16 客員研究員(Agreementによるもの)	○	n/a	○	n/a	n/a	n/a	○	
17 客員研究員(研究機関間の契約によるもの)	○	雇用元	○	雇用元	雇用元	雇用元	○	
18 サバティカル(外部機関所属の者)	○	雇用元	○	雇用元	雇用元	雇用元	○	
19 その他招聘者	○	n/a	○	n/a	n/a	n/a	○	
他大学に所属し臨時で在籍する研究員に関しては、受入ユニットや財源の所在によってステータスが異なる								
学生区分								
20 正規学生	PRP 5.5.1	○	○	なし(a)	○	国保 + 学研災 + 学研賠	○	
21 非正規学生(特別研究学生)	PRP 5.5.2.1	○	○	なし(b)	○	国保 + 学研災 + 学研賠	○	
22 非正規学生(リサーチ・インターン)	PRP 5.5.2.2	○	○	なし(c)	○	国保 + 学研災 + 学研賠	○	
23 非正規学生(科目等履修生)	PRP 5.5.2.3	○	○	なし	○	n/a	○	
24 非正規学生(聴講生)	PRP 5.5.2.4	○	○	なし	○	n/a	○	
25 JSPS Fellows (学生)	なし	JSPS	JSPS	n/a (JSPS)	JSPS	国保(海外旅行保険) + 学研災 + 学研賠	○	
その他								
26 ワークショップ参加者・招聘者	n/a	n/a	n/a	n/a	n/a	雇用元(e)	○	
27 清掃業者	n/a	n/a	n/a	n/a	n/a	雇用元	○	
28 納入取引先	n/a	n/a	n/a	n/a	n/a	雇用元	○	
29 SPC職員	n/a	n/a	n/a	n/a	n/a	雇用元	○	

- a. リサーチアシスタントとして経済的支援
b. 経済的支援が必要な場合、受入れ研究ユニットが提供(予算確保)
c. 実習手当、(必要に応じて)交通費、及び学内又は近隣の宿泊施設といった経済的支援を提供
d. 正規学生、特別研究学生は国民健康保険加入は義務 (PRP5.4.3.2 and 5.5.2.1.3.5)
全生徒に学生教育研究災害傷害保険(学研災)、学研災付帯賠償責任保険(学研賠)がつく
在留資格を保持していないリサーチインターン(招聘)は海外旅行保険に加入
e. OISTが航空券購入時の国際線フライトのみ旅行保険が適用
f. OIST全体で加入している保険(賠償責任保険)
【対象者】
・OIST主催の行事参加者およびボランティアの全員
・OISTから業務の委託を受けた者(その業務の範囲に起因する事故の損害賠償のみ補償)、他
【保険金額】
1事故最大5億円まで
ただし、対象者がOIST所有・使用・管理する国内の施設で、OISTの責任に起因する事故による怪我等にのみ補償適用。

参考PRP

- 30.4.1 どの職員区分に属するかに関わらず、全ての職員は、人事に関する基本方針、ルール、手続きを順守しなければなりません。
30.2.4 法人役員: 人事に関する方針は、特に明記されない限り、学園の役員には適用されません。
(理事長・学長、副理事長を含む理事、監事)
30.3.1 職務規律: 本学の全ての構成員は、第1章に規定された「行動規範」に基づき、本学と本学のミッションに対して職務上の忠誠を尽くす義務があるとともに、定められた職務遂行上の基準を満たす事が期待されます。

別表5-1. OIST職員区分 (日)
Appendix 5-1. OIST Employee Category (J)

	Rules/Definitions PRP	Status Position	Office Regulations	Salary	Welfare	Insurance	Compensation (f)	
Employees							depend on working hours	
1	Officers	PRP 22.8.7	○	○	○	○	Shigaku-Kyosai	○
2	Administrative Staff (full-time)	PRP 30.2.2.3.1	○	○	○	○	Shigaku-Kyosai	○
3	Administrative Staff (part-time)	PRP 30.2.2.3.2	○	○	○	○	Shigaku-Kyosai	○
4	Administrative Staff (dispatched)	○	Dispatching Agency	○	Dispatching Agency	Dispatching Agency	Dispatching Agency	○
5	Administrative Staff (temporary/Pref. office, bank of Okinawa)	None	Dispatching Agency	○	Dispatching Agency	Dispatching Agency	Dispatching Agency	○
6	Intern under Training Program for Administrative Internationalization	OIST internal guideline	Dispatching Agency	○	Dispatching Agency	Dispatching Agency	Dispatching Agency	○
7	Administrative Intern/IT Intern (Unif. Of Ryukyu, ONCT)	None	n/a	○	n/a	n/a	Dispatching Agency	○
8	Science Communication Intern	PRP 30.2.2.3.2	○	○	○	○	Shigaku-Kyosai	○
Researchers								
9	Faculty	PRP 4.2.1/30.2.2.3	○	○	○	○	Shigaku-Kyosai	○
10	Postdoctoral Scholar	PRP 4.2.2/30.2.2.3	○	○	○	○	Shigaku-Kyosai	○
11	Staff Scientist	PRP 4.2.3/30.2.2.3	○	○	○	○	Shigaku-Kyosai	○
12	Research Specialist	PRP 4.2.4/30.2.2.3	○	○	○	○	Shigaku-Kyosai	○
13	Technician	PRP 4.2.5/30.2.2.3	○	○	○	○	Shigaku-Kyosai	○
14	Science & Technology Associate	PRP 4.4.1	○	○	○	○	Shigaku-Kyosai	○
15	JSPS Fellows (researchers)	None	JSPS	JSPS	n/a (JSPS)	JSPS	NHI (or international travel insurance)+PAS(学研災+学研賠)	○
16	Visiting Researcher (under an Agreement)	○	n/a	○	n/a	n/a	n/a	○
17	Visiting Researcher (under Inter-Institutional Agreement)	○	Dispatching Agency	○	Dispatching Agency	Dispatching Agency	Dispatching Agency	○
18	Sabbatical Researcher	○	Dispatching Agency	○	Dispatching Agency	Dispatching Agency	Dispatching Agency	○
19	Other guests	○	n/a	○	n/a	n/a	n/a	○
	The status of visiting researchers/guests depends on host units and origin of fund							
Students					Student Support (d)			
20	Registered OIST Students	PRP 5.5.1	○	○	No (a)	○	NHI+PAS(学研災+学研賠)	○
21	Special Research Students	PRP 5.5.2.1	○	○	No (b)	○	NHI+PAS(学研災+学研賠)	○
22	Research Intern	PRP 5.5.2.2	○	○	No (c)	○	NHI+PAS(学研災+学研賠)	○
23	Visiting Students	PRP 5.5.2.3	○	○	n/a	○	n/a	○
24	Course Auditors	PRP 5.5.2.4	○	○	n/a	○	n/a	○
25	JSPS Fellows (Students)	None	JSPS	JSPS	n/a (JSPS)	JSPS	NHI (or international travel insurance)+PAS(学研災+学研賠)	○
Others								
26	Workshop attendees/guests	n/a	n/a	n/a	n/a	n/a	Dispatching Agency (e)	○
27	Cleaning staff	n/a	n/a	n/a	n/a	n/a	Dispatching Agency	○
28	Vendors	n/a	n/a	n/a	n/a	n/a	Dispatching Agency	○
29	SPC employees	n/a	n/a	n/a	n/a	n/a	Dispatching Agency	○

a. Provide financial support as research assistants

b. The hosting research unit provide financial support as necessary (obtain fund)

c. Provide internship allowance, commuting support and accommodation as necessary.

d. Registered Students/Special Research Students are required to obtain National Health Insurance (NHI)(PRP5.4.3.2 and 5.5.2.1.3.5)

All students are under PAS(Personal Accident Insurance for Students Pursuing Education and Research)

Research Interns who are not residents of Japan are required to have international travel insurance

e. Only when OIST purchases international flights (international travel insurance)

f. Liability Insurance (OIST)

[Subject Person Insured]

*Participants and volunteers of events hosted by OIST

*Persons who are performing business for OIST (compensate only the range of accidents caused by performing the business)

[Limit of Liability]

Up to 500 million yen per accident

Apply only to the accident occurred within the facilities in Japan under the property/use/management of OIST, and the injury was caused by OIST responsibility

Reference PRP

30.4.1 Regardless of their employment categories, all University employees must comply with HR policies.

30.2.4 The HR policies do not apply to the Officers of the OIST School Corporation, unless stated otherwise.

(the Governors, including the Chief Executive Officer (CEO)/President of the University and the Vice CEO of the University, and the Auditors)

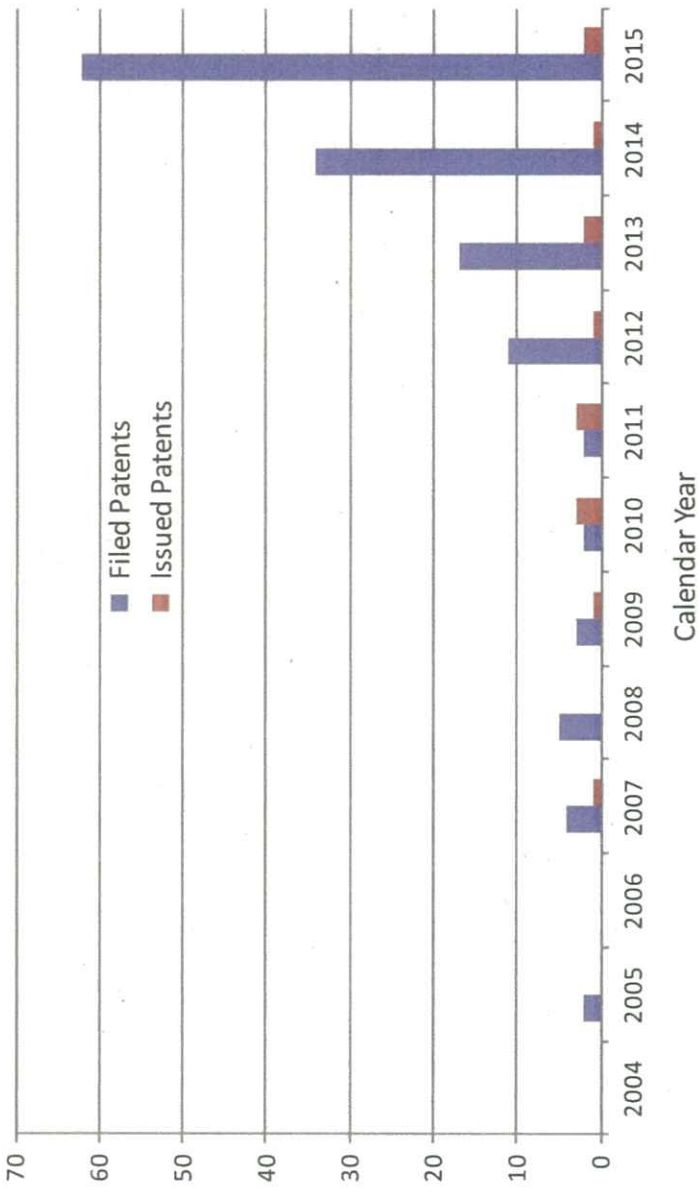
30.3.1 All members of the University community are expected to owe the primary professional allegiance to the University and its mission and to behave in accord with standards for professional practice described by the University Code of Conduct as stated in the Chapter 1.

別表 5 - 2. OIST職員区分 (英)

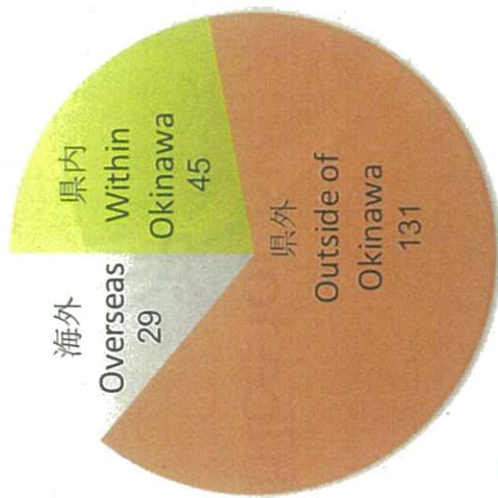
Appendix 5-2. OIST Employee Category (E)

Definition of the Visitors

Type of Visitors	Definition	Duration of their visit	OIST Resources	Visiting Researcher Agreement
Guests With No Visa	<ol style="list-style-type: none"> Short-term visitor / Guest Researcher who would stay at OIST less than 3 weeks. E.g. Seminar Speaker No need for an OIST account Those who can enter Japan without visa (visa waiver program) 	A few days ~ 3 weeks	NO	Not required
Guests With Visa	<ol style="list-style-type: none"> Short term visitor / Guest Researcher who would stay at OIST less than 3 weeks. E.g. Seminar Speaker No need for an OIST account Those who need a visa to enter Japan (Incl. Tourist Visa) 	A few days ~ 3 weeks	NO	Not required
Visiting Researcher Short term visitors	<ol style="list-style-type: none"> Short term Visiting Researcher who would stay at OIST under an agreement (single time visit) Need to access OIST facilities With/without visa 	1 ~ 90 days	YES	Required
Visiting Researchers Multiple time visitors	<ol style="list-style-type: none"> Short term Visiting Researcher who would stay at OIST under an agreement (multiple time visitor) Need to access OIST facilities With/without visa 	1 ~ 90 days Multiple times	YES	Required
Visiting Researchers Continuous visitors	<ol style="list-style-type: none"> Long term Visiting Researcher who would stay at OIST under an agreement. Need to access to OIST facility Visa required 	1 days ~ 364 days	YES	Required
Collaborative Researchers Short term visitors	<ol style="list-style-type: none"> Short term Visiting Researcher who would work under an inter-institutional agreement between OIST and their home institute (single visit) Involves the Sponsored Research Division With/without visa 	1 ~ 90 days	YES	Required
Collaborative Researchers Multiple time visitors	<ol style="list-style-type: none"> Short term Visiting Researcher who would work under an inter-institutional agreement between OIST and their home institute (multiple visitor) Involves the Sponsored Research Division With/without visa 	1 ~ 90 days Multiple times	YES	Required
Collaborative Researchers Continuous visitors	<ol style="list-style-type: none"> Long term Visiting Researcher who would work under an inter-institutional agreement between OIST and their home institute Involves the Sponsored Research Division Visa required 	1 days ~ 364 days	YES	Required



特許出願 Filed Patents	142
特許取得数 Issued Patents	14
外部資金 (産学関連) Externally Funded Industry-Related Grants	12



これまでやりとりが
あった企業数
Network with
Industrial Companies
205

[Cumulative as of 1 January 2016]

別表 7. 沖縄の自立発展担当オフィス
Appendix 7. Office of Sustainable Development of Okinawa



First Cephalopod Genome Decoded (<https://www.oist.jp/ja/news-center/media-links/first-cephalopod-genome-decoded>)

出典:

Overseas Media

公開日:

2015-08-13

英科学誌ネイチャーの表紙を飾ったタコのゲノム解読に関する研究論文は、OIST分子遺伝学ユニットがシカゴ大学やカリフォルニア大学バークレー校の共同研究先ととりくんだものです。これにより、世界で初めて頭足類の全遺伝情報が明らかになりました。OISTウェブサイト記事「[タコのゲノムを解読する](#)」にまとめられた本研究成果は内外の報道機関にとりあげられました。

[The cover of the latest issue of Nature](#) is about research by the OIST Molecular Genomics Unit and its collaborators: they have decoded and analyzed a species of octopus, making it the first cephalopod to be decoded. Read the OIST News Center article "[Decoding the Genome of an Alien](#)" and peruse the list below to see the many international media outlets covering the story.

- The Economist: "[Octopuses, genes and intelligence: Tentacles that think.](#)"
- Science: "[Octopus genome surprises and teases](#)"
- Nature News: "[Octopus genome holds clues to uncanny intelligence: DNA sequence expanded in areas otherwise reserved for vertebrates.](#)"
- NPR: "[Octopus Genome Offers Insights Into One Of Ocean's Cleverest Oddballs.](#)"
- LA Times: [What the Octopus Can Teach Us](#)
- Nature Japan Digest 10月号: [タコのゲノムから高知能の秘密に迫る](#)
- NHK News Web: "[タコの全遺伝情報を解読 生態の謎解明へ](#)"
- フジテレビ: "[世界初、タコのゲノム解読に成功 沖縄科学技術大学院大学](#)"
- The Japan Times: "[Japanese, U.S. universities decode octopus genome](#)"
- 朝日新聞: [知能高いタコ、全ゲノム解読 沖縄科学技術大学院大など](#)
- 産経新聞: [タコのゲノム解読 特殊能力解明へ](#)
- 東京新聞: "[タコのカムフラージュ術解明も？ 全遺伝情報を解読:社](#)"
- 日刊工業新聞: "[沖縄科技大など、タコのゲノム解読に成功-トランスポゾンが半分占め](#)"
- 日経バイオテックONLINE: "[沖縄OISTなど、タコのゲノムを解読、Nature誌の表紙に](#)"
- ABC.es: "[Descifrado el genoma del pulpo, el primer ser inteligente.](#)"
- The Wall Street Journal ウォールストリートジャーナル日本版: "[タコのゲノム解読＝進化解明に期待－沖縄科技大な](#)"
- Deutschlandfunk (German Public Radio)
- Вести (VESTI) (Russian News Channel)
- Gizmodo: "[First Complete Octopus Genome Will Unlock Cephalopod Secrets.](#)"
- ScienceNews: "[How an octopus's cleverness may have evolved: DNA analysis shows cephalopod makes wide variety of same proteins that spur nervous system development in mammals](#)"
- Bio Impact: "[タコの全遺伝情報を解読 生態の謎解明へ \(NHK\)](#)"
- Science Life: "[Octopus genome sequenced](#)"
- Berkeley News: "[Octopus genome reveals cephalopod secrets](#)"
- Phys.Org: "[First cephalopod genome contains unique genes involved in nervous system, camouflage.](#)"
- ScienceDaily: "[Octopus genome reveals cephalopod secrets](#)"
- The Baltimore Sun: "[Octopus studies detail strange behavior and genetics](#)"
- Los Angeles Times: "[Octopus studies detail strange behavior and genetics](#)"
- FIS Japan: "[Octopus study aids to reveal its unique trait](#)"
- ジョルダンニュース!: "[軟体動物イチの知能派 タコの遺伝情報を解読 沖縄科技](#)"
- エキサイト: "[軟体動物イチの知能派 タコの遺伝情報を解読 沖縄科技](#)"
- Sci-News.com: "[Scientists Sequence Genome of California Two-Spot Octopus](#)"
- UChicago News: "[Landmark sequencing of octopus genome shows basis for intelligence, camouflage](#)"
- Genetic Engineering & Biotechnology News: "[No Inky Cloud, No Camouflage Hides the Octopus Genome](#)"
- Cape Times: "[Octopus 'first intelligent being on planet'](#)"
- Futurity.org: "['ALIEN' GENOME REVEALS OCTOPUS SECRET](#)"
- infoZine: "[Octopus Genome Sequence](#)"
- Health Medicine Network: "[Octopus genome sequence](#)"
- International Business Times: "[Octopus Genome Sequenced For First Time, Hints At Intelligence](#)"
- Le Scienze: "[Lo straordinario genoma del polp](#)"
- Zee News: "['Alien' octopus genome sheds fresh light on evolution](#)"
- CanIndia News: "['Alien' octopus genome sheds fresh light on evolution](#)"
- Health Medicine Network: "[Decoding the genome of an alie](#)"
- Styrk: "[Octopus studies detail strange behavior and genetics](#)"
- Terra Daily: "[Scientists decode octopus genome, reveal cephalopod secrets](#)"
- OceanNews Weekly: Consortium for Ocean Leadership: "[First-Ever Octopus Genome Sequence](#)"
- Yahoo! Japan ニュース: "[タコのゲノム解読＝進化解明に期待－沖縄科技大な](#)"
- ハザードラボ: "[軟体動物イチの知能派 タコの遺伝情報を解読 沖縄科技](#)"
- IRORIO: "[「まるでエイリアン」－タコの全遺伝情報解読で神経生物学者がコメン](#)"
- 2channel News Navigator: "[【遺伝学】 タコのゲノム解読に成功-トランスポゾンが半分占める/沖縄科学技術大学院大な](#)"
- MSNニュース: "[タコのゲノム解読＝進化解明に期待－沖縄科技大な](#)"
- Technobahn: "[Octopus Genome Sequence](#)"
- Technobahn: "[Octopus Genome Reveals Cephalopod Secret](#)"
- mixiニュース: "[タコのゲノム解読＝進化解明に期待－沖縄科技大な](#)"
- 時事ドットコム: "[タコのゲノム解読＝進化解明に期待－沖縄科技大な](#)"
- アマーバニュース: "[タコのゲノム解読＝進化解明に期待－沖縄科技大な](#)"
- ガジェット通信: "[タコのゲノム解読＝進化解明に期待－沖縄科技大など\[時事\]](#)"
- 生物通: "[诺奖得主Nature发布基因组研究重要成](#)"
- ArcaMax: "[Octopus studies detail strange behavior and genetics](#)"
- People's Daily (Spanish): "[Descifran el genoma del pulpo, el primer ser inteligente](#)"
- ScienceNewsline: "[Decoding the Genome of an Alie](#)"

- ScienceNewsline: "[Octopus Genome Sequence](#)"
- ScienceNewsline: "[Octopus Genome Reveals Cephalopod Secret](#)"
- LiveScience: "[Clever Creature: Photos of the California Two-Spot Octopus](#)"
- Before It's News: "[Natural GMOs Part 222: The octopus genome sequenced](#)"
- Biology News Net: "[Octopus genome reveals cephalopod secret](#)"
- Gizmodo India: "[First Complete Octopus Genome Will Unlock Cephalopod Secrets](#)"
- ネタリか: "[「まるでエイリアン」タコの全遺伝情報解読で神経生物学者がコメン](#)"
- 网易新闻: "[研究发现章鱼有最独特基因 堪称地球最聪明动物\(组图\)](#)"
- Congoo News: "[Scientists sequence octopus genome: A better understanding of cephalopods?](#)"
- Mental Floss: "[First Entire Octopus Genome Sequence](#)"
- 長青網: "[八爪魚聰明因有獨特基](#)"
- The Daily Galaxy: "[Decoding the Genome of an Alien --Today's Feature](#)"
- Kansas City infoZine: "[Octopus Genome Sequence](#)"
- Pioneer News: "[Scientists Map Out A Cephalopod Genom](#)"
- Lighthouse News Daily: "[OCTOPUS GENOME REVEALS MYSTERIES OF COMPLEX INTELLIGENCE](#)"
- Rapid News Network: "[First Fully Sequenced Octopus Genome Reveals Secrets Of Cephalopod Intelligence](#)"
- KRWG News 22: "[Octopuses 'are aliens', scientists decide after DNA study](#)"
- Technie News: "[Researchers sequence genome of 'alien' octopu](#)"
- Clapway: "[Octopus Genome Reveals the Roots to Its Brilliance](#)"
- Bioscience Technology: "[Octopus Genome Sequenced](#)"
- Sci-Tech Today: "[Octopus Studies Detail Strange Behavior and Genetics](#)"
- エキサイトニュース: "[タコのゲノムは人間とほぼ同じ大きさ。並外れた知能を解き明かすヒントを発見 \(日米独研究\)](#)"
- 47 NEWS: "[タコの頭の良さ証明 沖縄科学技術大学院大学など全ゲノム解読](#)"
- 快適家電Life: "[タコの頭の良さ証明 O I S T など全ゲノム解読 - 琉球新報](#)"
- Yahoo!ニュース Japan: "[タコの頭の良さ証明 O I S T など全ゲノム解読](#)"
- バイオインパクト: "[タコの頭の良さ証明 O I S T など全ゲノム解読 - 琉球新報](#)"
- Care2: "[This is How Super Smart Octopuses Are](#)"
- Wildlife Extra: "[Scientists discover just how surprisingly complex is an octopus' genetic code](#)"
- 财经新闻滚动 搜狐资讯: "[章鱼发现最独特基因 堪称地球最聪明动物](#)"
- 中搜行业中国: "[章鱼发现最独特基因 堪称地球最聪明动物](#)"
- 网易房产博客: "[地球上最聪明的动物 竟然是章鱼](#)"
- 澳華網: "[章鱼發現最獨特基因 堪稱地球最聰明動物](#)"
- Entorno Inteligente: "[Secuencian el genoma del pulpo, el invertebrado más "inteligente" "](#)"
- 留园网: "[章鱼被发现最独特基因 堪称地球最聪明动物\(图\)](#)"
- LibertaGia News: "[Genoma do polvo revelado na ponta dos seus oito tentáculos, ou dos "pés"](#)"
- El Telegrafo: "[Secuencian el genoma del pulpo, el invertebrado más "inteligente"](#)"
- 新闻频道_中国青年网: "[地球上最聪明的动物 竟然是章鱼](#)"
- MedIndia: "[Researchers Sequence the Genome of an Octopus, First Cephalopod to be Sequenced](#)"
- 中国网 - 海洋中国: "[章鱼发现最独特基因 堪称地球最聪明动物 \(图\) "](#)"
- Rocket News: "[Scientists declare that octopuses are basically aliens](#)"
- 河南要闻-大河网: "[章鱼独特基因堪称最聪明动物](#)"
- Yahoo! News Canada: "[Cooler Than You Think: Scientists Map Genetic Sequence of an Octopus](#)"
- 微头条/微信聚合资讯: "[章鱼堪称地球最聪明动物 有独特基因](#)"
- HLNtv: "[The octopus is way smarter than we thought!](#)"
- The Daily Dot: "[The octopus has the weirdest DNA map scientists have ever seen](#)"
- Panorama Acuicola Magazine: "[Octopus study aids to reveal its unique traits](#)"
- 证券之星: "[地球上最聪明的动物？竟然是章鱼！](#)"
- TreeHugger: "[This is how super smart octopuses are](#)"
- IT之家: "[堪称地球最聪明动物，竟是章鱼？](#)"
- Omy: "[八爪鱼聪明因基因独特](#)"
- Sputnik International: "[Scientists Hail Octopus as 'First Intelligent Being on Earth'](#)"
- MSN NZ: "[Armed with 10,000 more genes than humans: Scientists hail the intelligence of the octopus](#)"
- 西部网: "[研究发现章鱼有最独特基因 堪称地球最聪明动物](#)"
- Alaska Native News: "[First-Ever Octopus Genome Sequenced](#)"
- Lab Manager Magazine: "[Octopus Genome Sequenced](#)"
- 天津在线: "[章鱼有最独特基因：堪称地球最聪明动物](#)"
- 评校网: "[研究发现章鱼有最独特基因，堪称地球最聪明动物](#)"
- 天下网吧: "[章鱼发现最独特基因 堪称地球最聪明动物](#)"
- 新闻频道_中国青年网: "[研究发现章鱼有最独特基因，堪称地球最聪明动物](#)"
- Asian Scientist Magazine: "[Octopus Genome Sheds Light On Their Intelligence](#)"
- Immortal News: "[Aliens Among Us: Scientists Say Octopus Is E.T.](#)"
- Clapway: "[Is The Octopus An Alien, Or More Like Humans?](#)"
- Science Recorder: "[Brainiacs of the deep: Octopus genome reveals alien intelligence](#)"
- Nature World News: "[Octopus Have Been Found to have Unique Genes](#)"
- Technobahn: "[Octopus Have Been Found to have Unique Genes](#)"
- 中国网 (日本語): "[タコはやっぱり"地球外生物"！？](#)"
- 西部网: 日媒: "[地球生命或起源于陨石撞击](#)"
- National Institutes of Health: "[Untangling the Octopus Genome](#)"
- Ciencias Médicas News: "[Untangling the Octopus Genome - NIH Research Matters - National Institutes of Health \(NIH\)](#)"
- 川北在线: "[研究发现章鱼堪称最聪明动物 能够改变皮肤的颜色和纹理](#)"
- 産経ニュース: "[タコのゲノム解読成功 特殊能力解明へ 沖縄科技大学院大](#)"
- Livedoor ニュース: "[タコのゲノム解読成功 特殊能力解明へ 沖縄科技大学院大](#)"
- バイオインパクト: "[タコのゲノム解読成功 特殊能力解明へ 沖縄科技大学院大](#)"
- Current Biology: "[Intelligent Life Without Bones](#)"